

**KORG**

**SoundLink ハイブリッド**

**アナログ/デジタル・ミキサー**

**アナログの利便性**

**デジタルのパワー**





# 最高のミキサーとは高音質で使いやすいものである。

# HMD

ミキシング作業では戸惑うことが多くあります。Greg Mackie が言ったとおり、

「フィードバック、声の小さな司会者や突然音量を倍にするヴォーカリスト、マイクの誤った使い方、はじめてのグループのミックスをするときなど、問題が発生する可能性があるなら、予想以上に早く頻繁に戸惑うことがあるだろう。」

Greg Mackie (略歴は下) は 50 年ほどライブ・ミキシングに携わっています。

とても興味深いことに、彼はすべての現行デジタル・ミキサーの設計に協力しています—ご存知のとおり、デジタル・ミキサーはコントロールが少ない分画面メニューがたくさんあり、チャンネルにたどり着くための「バンク切り替え」があります。彼はバンドやタレントショー、講演会などのミキシングの際ずっとそういったミキサーを使っていました。結論は？

「あらゆるデジタル・インターフェースは素早く変更や修正をすることができないとわかった—多すぎるメニューとスクロールのために。その一方で、イコライザーやエフェクト、ダイナミック・プロセッシングやプリセットはデジタルの方が優れていると気づいた。」

SoundLink は Greg Mackie と Peter Watts のハイブリッドの答えであり、KORG によって見事に解釈され完成したものです。

必ずと言っていいほど起こる突発的な事態に際して、アナログ・ミキサーのように瞬間的にコントロールできる一方で、高音質のデジタル・エフェクトの性能を備えているというのが重要です。



Greg Mackie は最初の実用的なバンド用ミキサーを作るために 70 年代に TAPCO を設立しました。1990 年の時点で、彼は自分の名前を社名にした会社を設立しました。それは金銭的に余裕のないミュージシャンにとってもプロ・ミュージシャンにとってもライブやスタジオ・レコーディングにおいてまさに革命的でした。2002 年に会社を退職したのちも、他社や自分自身のための設計に奔走しています。

イギリスのロンドンで生まれ、Peter は Trident Audio で 18 年間 (うち 10 年は R & D の責任者として) 働き、今や伝説となったハイエンド・アナログ・ミキサーの組み立てや検査、設計をしていました。彼は Mackie Designs に入社するためアメリカに移住し、デジタル・ミキサーおよび関連商品のエンジニアリング 担当副社長兼チーフ・デザイナーとして 7 年間勤務しました。2003 年に Peter は独立したプロ向けのオーディオ設計会社として Stonepower Ltd を設立し、数多くのブランドのプロジェクトに取り組んでいます。

この「ハイブリッド」という形容詞は数多のミキサー商品によって粗雑に扱われています。Greg Mackie はアナログ・ミキサーのようにミキシングを簡単にするため SoundLink を設計しました—しかし思い当たる高品質のデジタル競合商品よりもデジタルであるということが最善のソリューションなのです。SoundLink は同価格帯のどのミキサーよりも「ハイブリッド」という言葉にふさわしいミキサーです。



インプット・ゲイン・ノブの向こう側に SoundLink の HiVolt マイクプリアンプがあります。これは市場に出ている同価格帯のどのミキサーよりも高い電圧で動作します。つまりスピーチや音量の大きい楽器も歪まないようにより大きなヘッドルームがあるということです。

コンプレッションノブによって、特にボーカルや朗読のような極めて重要な信号処理を簡単に行うことができます。Peter Watts のメソッドのおかげで、ラックマウント式のスタジオプロセッサーとなっています。



確かに、どのミキサーにもチャンネルストリップ EQ のコントロールはあります。そこで重要なのは強引にまたは露骨に聞こえるのではなく、自然かつさりげなく音楽やスピーチを高めるために設計されたかということです。Peter Watts の「大きなコンソール」デザインは完璧に決まりました。SoundLink の同価格帯の他のミキサーには信じられないほど便利な MUTE GROUP がありません。ここでマスター・セクションにあるボタンを使えば、たくさんのチャンネルをいじることなく思い通りのチャンネルの組み合わせを選ぶことができます。これはつまり異なる曲またはアコースティックの曲を別のミュート・グループにすることができるうえ、説教と聖歌隊とソリストと宣誓などを別のミュート・グループに分けることもできるということを意味しています。ミュートは 1 つのミュートなのかミュート・グループの状態なのかを見分けられるように内部が赤色および黄色に点灯します。



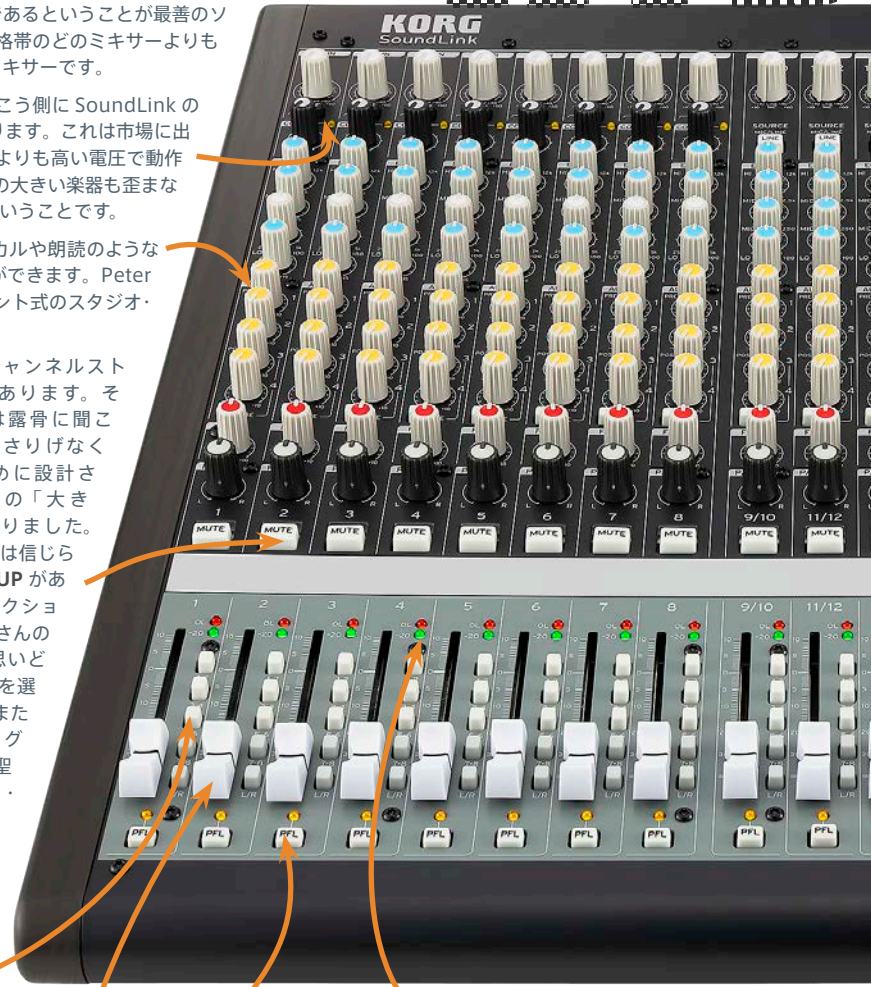
チャンネルを 4 ステレオバス (8 モノラルバス出力) もしくはメイン L/R のいずれかにアサインできます。リアフィル/サイド、サブウーファーなどの別々のフィードのような各種用途に役立ちます。競合商品には 2 つのステレオバスしかありません。



非常に滑らかな 60mm Alps® 社製 フェーダー。Alps 社は Mercedes Benz のパーツとしても使われています。コストはかかるものの動きが良く、ほこりを防ぎ、何年間もそれが続きます。

PFL (プリ・フェーダー・リスン) スイッチによってチャンネル・フェーダーで調整をする前の信号をヘッドフォンやモニター・アウト・ジャックに送れます。

すべてのチャンネルに LED のインプット・レベル「ハシゴ」全体は本当に必要でしょうか? いいえ。それぞれのチャンネルがミキシング中に「伝える」必要があるのは: A) チャンネルが音声信号を送信しているか? B) チャンネルがクリップしていないか? だから Greg はそれぞれのチャンネルに -20 と OL (オーバー・ロード) LED を明示し、それぞれのフェーダーのすぐ隣にそれを配置しました。





# RID



ミキサーの中にはスマートフォンやタブレット、休憩中音楽を聞くための MP3 プレイヤーを接続するための入力があるものもあります。しかし驚くべきことに、便利にするためミキサーのフロント・パネルにその入力配置されているものは少ないです。また、アダプターを必要とする 1/4 インチジャックの代わりに 1/8 ジャックを採用しているものもいまだ少ないです。この入力は MW-2408 では 23 チャンネルおよび 24 チャンネル、MW-1608 では 14 チャンネルと 16 チャンネルで供給されています。



正確に動作するデジタル：高機能のマルチバンド、デュアル「Q」イコライザー；調節可能なコンプレッサー、リミッターやノイズゲート；自動フィードバック・サプレッサー（デジタルの影響なしでうまく機能する）、極めて小さいフィードバックのための 31 バンド・スペクトラム・アナライザー、そして KORG の名高い 32 ビット・デジタル・エフェクトが 20 種類あります。これらはすべて画面上で、微調整、保存、呼び出し、一覧できます。

メニューの中でさらにメニューをスクロールする時間が長いと、デジタル処理やエフェクトを使うとき苛立つこともあるでしょう。EQ や他のコントロール機能のための 9 個のダイレクト・ボタン、そして個別の L/R、AUX1 や AUX2 にイコライザーとダイナミクス両方のボタンがアサインされているのでミキシングがより簡単になります。



## MUSICIAN'S PHONES コントロールと

**MUTE GROUPS** はユーザーが言うところの「なぜ誰も考えつかなかったのだろうか？」という Greg Mackie の特長の 2 つです。**MUSICIAN'S PHONES** ではメインミックスを妨げることなく、ミュージシャンのヘッドホン、インイヤーモニターやステージ・モニターでカスタムしたミックスを聞くことができます。**MUTE GROUPS** では保存や呼び出し可能な入力チャンネルの組み合わせを作ることができます。詳しい情報についてはこの冊子の次のページをご覧ください。

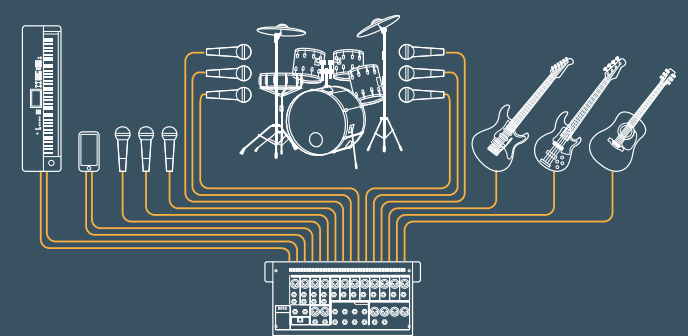


それでは最後に、構造上の品質について一言。どちらの SoundLink ミキサーも搬出時に屈曲から耐える頑丈なスチール製フレームでできています。また本物の木製サイド・パネルによって剛性が高められています。さらにフロントパネル上の高品質のロータリー・ボリュームが上部からの衝撃に耐えます。

このミキサーにはおよそ 8 つのフェーダーと「バンク・スイッチ」ボタンの代わりに、一度に見て触れるチャンネルが 24 個あります。そのような設計によって、ボーカリストが突然大声を出したときにもチャンネル 17 にすぐにたどり着けるでしょう。

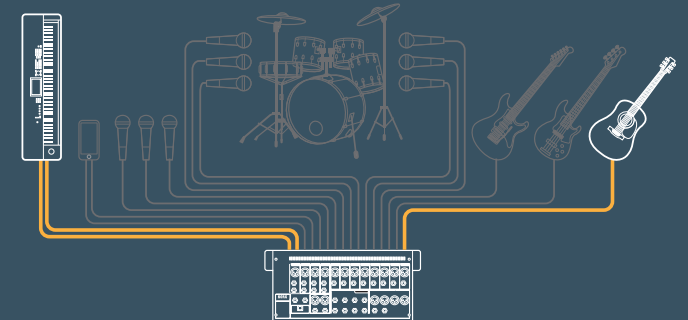
4 つのステレオ・サブミックス（8 バス）では、例えば、1 つのフェーダーにすべてのドラム・マイクまたはすべてのバックグラウンド・ボーカル・マイクを組み合わされます。もしくはサブ・ウーファーや機数席、泣き部屋のように 8 つの離れた場所に異なるミックスを送れます。

## SoundLink ミュート・グループのパワー

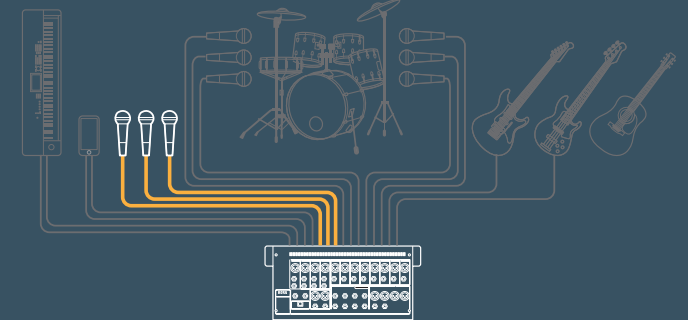


上の図は MW-1608 の理論上の全帯域入力を並べたものです。あなたはほとんどのセットのすべてのレベル（フェーダーの位置）に満足しています。しかしある一曲では、ボーカルとアコースティック・ギターとキーボードだけしかありません。すぐに 13 チャンネルのフェーダーを下げられますが、そうすると元の設定がなくなってしまいます。

そんなとき 2 つの入力だけのミュート・グループを作って保存できるのです。それはマスター・セクションからいつでも有効にできます。



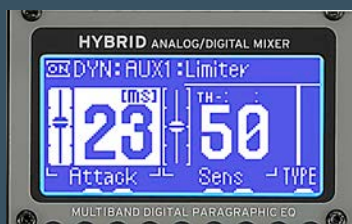
ここにあるのは 3 声のアカペラ曲のためのもうひとつのミュート・グループです。手ごろな価格で作られたデジタル・オートメーションの一種です！





# SoundLinkデジタルのパワー

Greg Mackie と Peter Watts の素晴らしいグラフィック EQ ソリューションこそが SoundLink のデジタル・ツールとしての強みです。



- 保存と呼び出し：
- 保存とディスプレイのコントラストの設定
- 5タイプのプリセットと10タイプのユーザー・ダイナミクスの設定
- レベル・メーターの表示速度設定
- スペクトラム・アナライザーの表示速度設定
- 6つのパラグラフィックEQ設定
- 24タイプのプリセットと30タイプのユーザー・デジタル・エフェクト設定
- リミッター、ハード・コンプレッサー、ソフト・コンプレッサーから好みのものを選べます。それぞれのダイナミクスを2つのパラメーター・コントロールで処理します。
- フィードバック・サプレッサーをAUX1、AUX2、およびL/Rにアサイン可能
- KORGの高品質デジタル・エフェクト：
  - Hall Reverb normal & Warm
  - Room Reverb normal & Warm
  - Vocal Reverb normal & Warm
  - Plate Reverb normal & Warm
  - Spring Reverb normal & Warm
  - Analog Delay
  - Tape Echo
  - Variable Standard and KORG SDD3000 Delay
  - Chorus
  - Flanger
  - Low Bass Booster
- さらにスペクトラム・アナライザーと共に使用するための4つのテスト信号があります。

**KORG**  
SoundLink





# リアパネルから見え、本格的なミキサーだということがわかるだろう。

フットスイッチ入力でエフェクトの ON/OFF を素早く切り替えられます。別売のフットスイッチは KORG 販売店で購入可能です。

新たに設計された HiVolt マイクプリアンプ・ブートクバック・チャンネルでさえも!!

SoundLink をスピーカーに接続しようとするとき、1/4 インチ TRS 端子だけでなく XLR 端子もあることの良さがわかるでしょう。

ステレオチャンネルは MW-1608 には 4 つ、MW-2408 には 8 つあります。

もうひとつ SoundLink の唯一の特徴は、AUX3 および AUX4 経由でふたりのミュージシャンがカスタマイズされたミックスをモニターする出力です。専用のコントロールでミュージシャン自身の楽器の音に LR メインミックスのほとんどを追加できます。



HiVolt マイクプリアンプ同然のマイクプリアンプがあり、あらゆるマイクからもっとディテールやニュアンスを引き出せるでしょう。+48 ボルトのファンタム電源によって高品質のコンデンサー・マイクも活用できます。

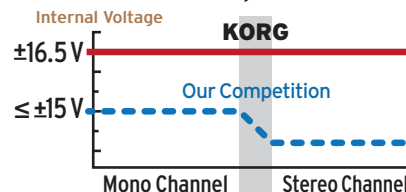
ステレオ USB ポートで 48kHz/24 ビットまでのパフォーマンスやリハーサルを保存できます。そしてチャンネル 15 ~ 16 (MW-2408 ではチャンネル 23 ~ 24) を経由するステレオ入力として使うことができます。ライブのミックスにバックアップ・トラックを加えるのに最適です。

8 バスの柔軟性は他のどの競合 16/24 チャンネル・ミキサーにも見受けられません。8 つのモノラル出力はドラムやバックアップ・トラック、ボーカルのサブ・ミックス、サブ・ウーファー出力、背面や側面のスピーカー、追加のミュージシャンのモニター、機材席のスピーカー、教会の入り口や泣き部屋に使うことができ、8 チャンネル A/D レコーディング・インターフェースに送ることもできます。

## HiVolt プリアンプがヘッドルームを増幅させる。

内部動作電圧によってマイクプリアンプの持っているヘッドルームがどのくらいか決まります。競合機種はモノラル・チャンネル時に約 15 ボルトを、ステレオ・チャンネルのマイクプリアンプ時はさらに低い電圧を使用しています。

### Mic Preamp Headroom



KORG HiVolt マイクプリアンプはモノラル・チャンネルだけでなくステレオ・チャンネルでも、同価格帯のどのミキサーよりも高い ±16.5 ボルトの電圧で稼働します。つまり歪むことなくより多くの入力を処理できるということです。そして HiVolt プリアンプの音がどれだけ優れているかについて言及しましたか？

## Greg Mackie と Peter Watts の巧みなデジタル・パラグラフィック EQ ソリューション



31 バンド・イコライザーは手術用のメスのようなものです。



31 バンド・スペクトラム・アナライザーとともに、「外科手術のように」イコライザーを部屋の音響問題や全体のシステム・フィードバック\*を軽減するためほんのわずかな狭帯域に使うことができます。

つまり 31 の狭帯域がすべて必要であるとはいえ、同時に 31 個のスライダーを使うことはほとんどありません。

その事実が Greg Mackie と Peter Watts の 9/31

バンド・パラグラフィック・イコライザーの核となっています。同時に 31 バンドからどれでも 9 個選択することができます。



しかし一方では、ブーメナス、定常波、反射面や多くの部屋が抱えているその他いずれかの問題を補正する必要があるとされています。

それは 9 個のボタンで調整ができます。実際に、SoundLink ミキサーはとてつもなく大きな画面を必要とせずに調整ができます。

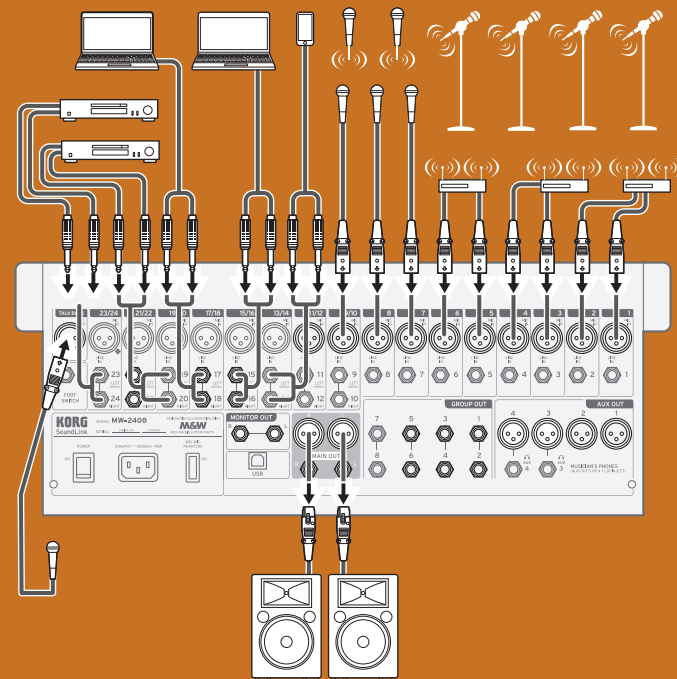
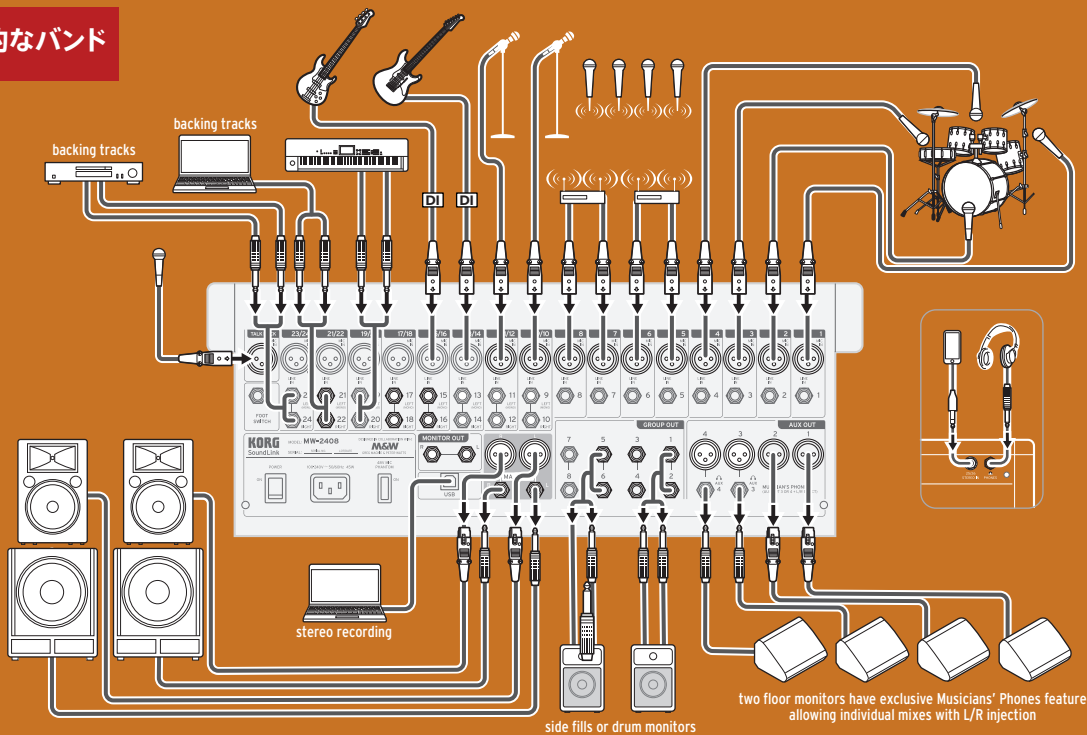


「パラグラフィック」とはパラメトリック、EQ カーブの傾きや幅をかえられるイコライザーの一種の働きのことです。SoundLink デジタルは広い帯域 (1 オクターブ) も狭い帯域 (1/2 オクターブ) も提供しています。

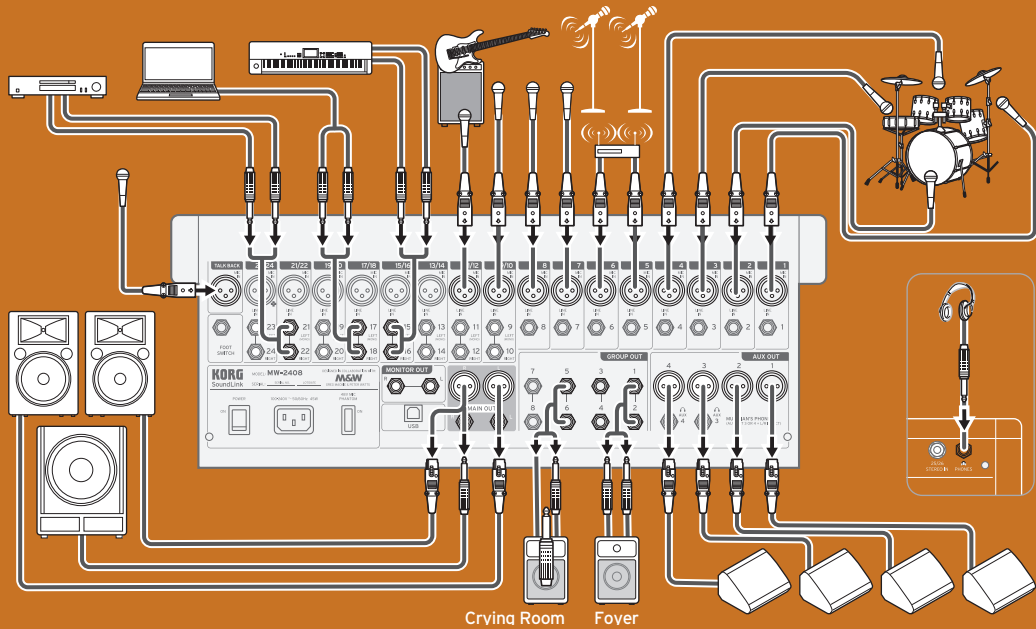
実践的な簡易の 99 バンド・イコライザーとしてボタンと画面を使うこともできます。6 つまでの EQ セットアップを保存および呼び出すことができます。

\*フィードバック・サプレッサーは異なるフィードバックの原因に有効です。どちらも必要になります。

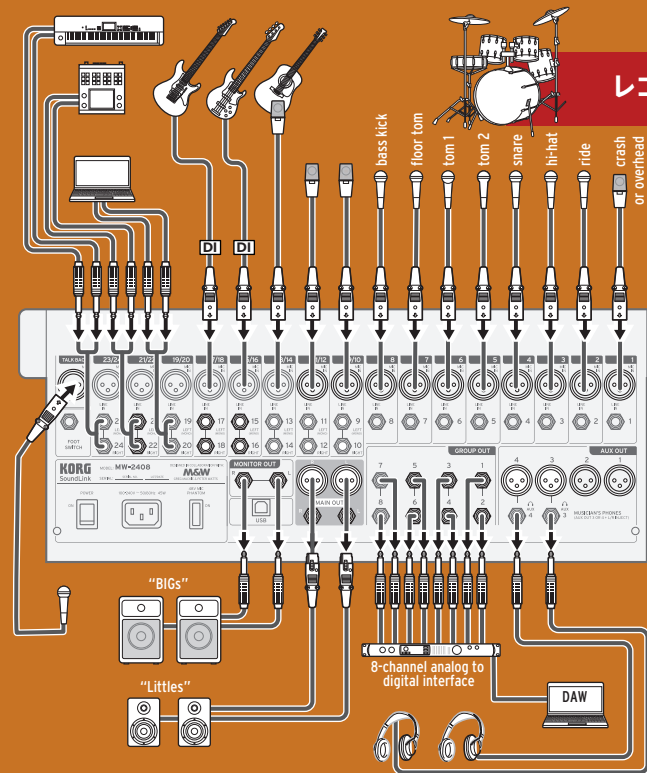
典型的なバンド



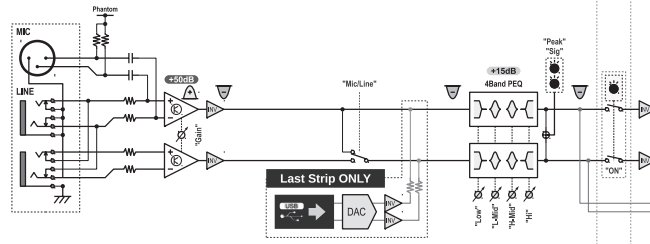
中小規模の教会



レコーディング

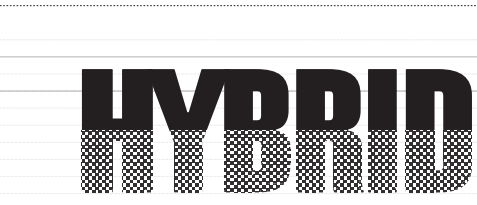
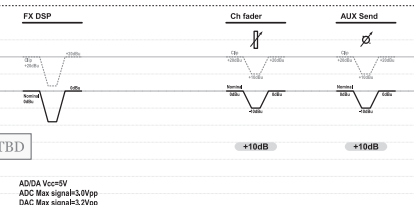
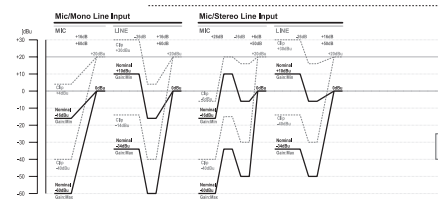
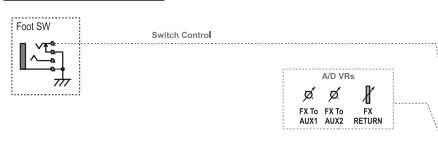


Mic / Stereo Line

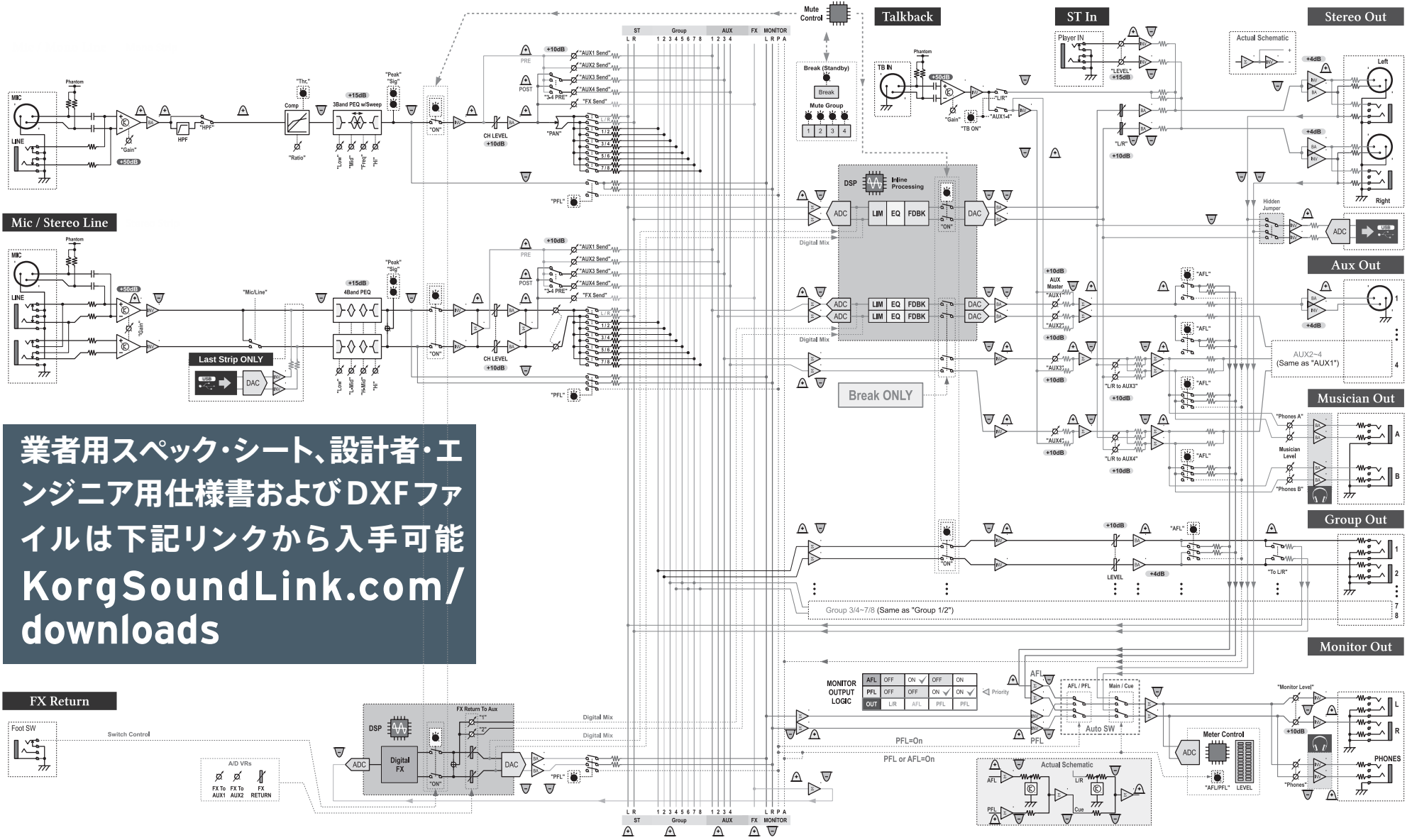


業者用スペック・シート、設計者・エンジニア用仕様書およびDXFファイルは下記リンクから入手可能  
[KorgSoundLink.com/downloads](http://KorgSoundLink.com/downloads)

FX Return



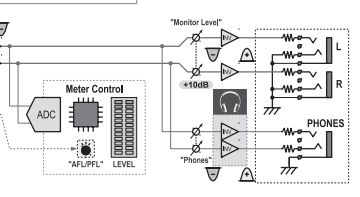
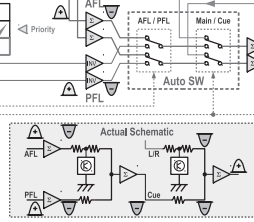
TBD  
 ADDA Vcr@V  
 ADC Max signal=3.0Vpp  
 DAC Max signal=1.2Vpp



MONITOR OUTPUT LOGIC

AFL	OFF	ON	OFF	ON
PFL	OFF	OFF	ON	OFF
OUT	L/R	AFL	PFL	PFL

Priority  
 PFL=On  
 PFL or AFL=On







## MW-1608

定価: ¥118,000 (税別)

- ミキサー設計のレジェンドである Greg Mackie と Peter Watts によって開発された真のハイブリッド設計
- 24 × 8 × 2 および 16 × 8 × 2 の 2 モデル
- Peter Watts の設計した HiVolt マイックプリアンプ、同価格帯のどのミキサーよりも大きなヘッドルーム (モノラルまたはステレオ・チャンネルで ± 16.5V 内部電圧)
- Velvet Sound™ A/D および D/A コンバーター (THD0.004%)
- 実用的な設計構造と考え尽くされた仕様で予測不可能なライブ・パフォーマンスのミックスがより簡単に
- L/R モニター、1/4 インチおよび XLR メイン出力、8 つの 1/4 インチ・グループ出力、4 つの XLR Aux 出力、Aux3 および 4 とリンクした 2 つの 1/4 インチ標準フォン出力、フロント・パネル・ヘッドフォン出力、ステレオ USB 出力
- 8 つのモノラル / 4 つのステレオ別の出力バス (真の 8 バス設計)
- 唯一無二の MUSICIAN'S PHONE モニター・セクションでは 2 人のミュージシャンがそれぞれ聞こえる全体のミックスに対して「自分の音」の割合をコントロール可能
- このクラスのミキサーの中でステージ上にあるミュージシャンのさまざまな入力組み合わせを素早く作ったり呼び出したりできるミュート・グループがあるのはこのミキサーだけ
- モノラル・チャンネルは Peter Watts



## MW-2408

定価: ¥136,000 (税別)

- Peter Watts の設計したコンプレッサー、リミッターやノイズゲートを含むデジタル・セクションはそれぞれパラメーターを編集・呼び出し可能
- 巧妙な 9/31 バンド・パラグラフィック EQ で使用可能な 31 の中から 9 バンドを指定
- KORG の有名な 32 ビット・デジタル・エフェクトが 20 個同時に 10 個ユーザー・セッティングに保存および呼び出しが可能
- FX をコントロールするフットスイッチ
- L/R および Aux1-4 へのトークバック
- Peter Watts が導き出したラックマウントプロセッサ・グレードのコンプレッサーをすべてのマイク・チャンネルに搭載
- あらゆる小型ミキサーの中で最高の自動フィードバック・コントロール
- USB ステレオ出力 / 入力、別売フットスイッチ用入力
- すべての XLR スピーカー出力のようなどとても便利なタッチ、そして 1/8 インチ入力と改良されたブレイク・スイッチ
- 非常に滑らかで長持ちする ALPS® フェーダーとロータリー・ボリューム
- MW-2408 は 19 インチのラックに適合
- iZotope™ Element 同梱



■ KORG の有名な 32 ビット・デジタル・エフェクトが 20 個同時に 10 個ユーザー・セッティングに保存および呼び出しが可能



■ すべての XLR スピーカー出力のようなどとても便利なタッチ、そして 1/8 インチ入力と改良されたブレイク・スイッチ

お客様相談窓口

0570-666-569

営業時間 10:00~17:00 月~金

※祝祭日、弊社規定の休日をのぞく

※PHSなど一部の電話ではご利用できません。

固定電話または携帯電話からおかけください。

# KORG

www.korgSoundLink.com

入力タイプ	XLR メス端子、1/4 インチ TRS メス端子、USB
HiVolt マイックプリアンプ	-128dBu EIN、-10 ~ -60dBu の入力レベル。入力インピーダンス: 3k Ω、16.5V 内部動作電圧
メイン出力への周波数応答 (unity gain 時)	+0.5 ~ -1.5dBu、20Hz ~ 20kHz
THD からメイン出力 <sup>1)</sup>	0.004%
メイン出力に対する S/N 比 <sup>2)</sup>	-70dBu
システムクロストーク <sup>3)</sup>	入出力、-70dBu; 隣接するチャンネル、-90dBu
ゲイン・コントロール・レンジ (± 1dB)	+10dB ~ +60dB (Mic)、-10 ~ 40dB (Line 入出力時) +10dB to +60dB (Mic)、-10 to +40dB (Line)
メイン出力	XLR オス端子、1/4 インチ TRS オス端子
最大出力レベル	+26dBu
出力インピーダンス	75 Ω
ヘッドフォン出力	1100mW/ch. @ 32 Ω load, 20Hz-20kHz (+0.5dB, 1.5dB)
保存可能なセッティング	チャンネルのミュート、エフェクト、エフェクトのミュート、ミュート・グループ、ブレイク設定、ダイナミクス、グラフィック EQ、フィードバックのバスへの割り当て
呼び出し可能なプリセット	4 つのミュート・グループ、10 個のグローバル・シーン・メモリ、24 個の FX メモリ、10 個のダイナミクス、6 個の GEQ、16 または 24 チャンネルのミュート、3 個のフィードバックバス割り当て
モノラル・チャンネル EQ	HI (12k、シェルビング型)、MID (ピーク、250Hz から 5k までスweep可能) および LOW (100Hz、シェルビング型)、± 15dB ブースト / カット
ステレオ・チャンネル EQ	HI (12k、シェルビング型)、HI MID (2.5k、シェルビング型)、LOW MID (250Hz、シェルビング型)、および LOW (100Hz、シェルビング型)
ハイパス・フィルター	12dB / オクターブ 80Hz
デジタル・マルチバンド EQ	一度に選択可能な 9 つの周波数を持つ 31 バンド、ワイド 1 オクターブ・インターバル、ナロー 1/2 オクターブ・モード
デジタル・コンプレッサー	ハード・アタック: 1ms ~ 40ms、閾値: +1dB ~ 0dB、ソフト・アタック: 1ms ~ 40ms、閾値: +11dB ~ -5dB
デジタル・リミッター	アタック 1ms ~ 40ms、閾値: +19 ~ +3dB

デジタル・ノイズゲート	ハード: 40ms ~ 1500ms リリース、閾値 -35dB ~ +7dB、ソフト: 40ms ~ 1500ms リリース、閾値 -50 ~ +4dB
スペクトラム・アナライザー	2 ピーク・ホールド機能付き 24 チャンネル、メイン L/R、AUX1、AUX2 に個別割り当て可能
メイン L/R Bus ADC ダイナミック・レンジ	115dB (A-wtd)
Aux または FX Bus ADC ダイナミック・レンジ	111dB (A-wtd)
DAC ダイナミック・レンジ	115dB (A-wtd)
USB ステレオ・インプット / レコーディング・ポート	USB Class 1
インターナルプロセッシング	32-bit
A/D/A Bit 深度	Korg Tru-Bit-Perfect 32-bit
USB Bit 深度	24-bit
サンプリングレート	48kHz、44.1kHz
デジタル・エフェクト	Rev Hall, Rev Hall Warm, Room, Warm Room, Rev Vocal, Rev Vocal Warm, Stage, Stage Warm, Plate Reverb, Plate Reverb Warm, Spring Reverb Warm, Analog Delay, Tape Echo, Variable Delay, Delay of the Korg SDD3000, Chorus, Flanger, Exciter, Sub Bass booster, 1 kHz Test Tone, Slow Sweep, Fast Sweep, White or Pink Noise
電源部	IEC
インプット電圧レンジ	100 ~ 240 VAC、50/60 Hz
消費電力	45 W
推奨環境	0°C ~ 40°C
寸法 (W x H x D)	MW-2408: 480 mm x 187 mm x 530 mm (440 mm サイド・パネル除く、19" ラック・レール装着時); MW-1608: 396 mm x 187 mm x 530 mm (356 mm サイド・パネル除く)
重量	MW-2408: 9.3kg MW-1608: 8.0kg

1) 20 ~ 20 kHz、unity gain、unweighted • 2) Ref = +4 dB, 20 kHz BW、unity gain、A-weighted • 3) Ref = +4 dBu、20 Hz ~ 20 kHz、unwtd)

●製品の色調は印刷のため、実際の色と多少異なることがあります。 ●製品の外観および仕様は事前の予告なく変更することがあります。 ●製品の色調は印刷のため、実際の色と多少異なることがあります。 ●価格は 2020 年 8 月現在のものです。

© 2020 KORG Inc. 無断複写・転載を禁じます。